



大阪プロバスクラブ

会報 第379号

2023年4月12日発行

Monthly Bulletin of

The Probus Club of Osaka

例会会場：ホテルモントレ大阪 06-6458-7111
 例会日：2022年7月より毎月第2水曜日 12時～14時
 ○創立 2001（平成13）年7月9日創立記念式7月16日
 ○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ
 ○友好クラブ：箕面ロータリークラブ
 ○会長：有竹正巳 ○幹事：西宮富夫 ○事務局：（幹事宅）
 〒563-0022 池田市旭丘 2-6-25 Tel：090-7496-5096
 ○会報担当：西宮富夫 pxi06603@nifty.com
 ○会報ホームページ：<http://osakapurob.exblog.jp/>
 ○全日本プロバス協議会：<https://www.all-japan-probus.com/>
 （R4年11月の第10回総会で決定された新体制）
 会長 田中信昭、幹事長 一瀬 明、会計 飯田富美子
 ○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版
<http://probuscent.exblog.jp/>

R5年3月始め～R5年4月初旬までの更新分（順不同）

クラブ	会報	記事一部
旭川	会報 第212号	雪の降る街音楽祭鑑賞会（212回例会）、他
神戸北	4月例会案内	観桜会；妙法寺川～妙法寺公園（徒歩にて）・懇親会食事：須磨和風荘、「ひとこと」山田信子、他
東京八王子	プロバスだより 第328号	卓話「仏像のみかた 仏の心再発見」内山雅之、寄稿「我ら昭和世代（5）怖い話」杉山友一会員、他
奈良	会報 第106号	ふれあいスピーチ、今月の健康-オーラルフレイル、東大寺修二会満行「だったん帽」のお手伝い、他
鈴鹿西	会報 第270号	河原清会長挨拶、鈴鹿市伝統産業会館見学「伊勢型紙」「鈴鹿墨」（ガイド大杉淳館長）、他
東京多摩	ニュース 第105号	卓話（1）「太陽系について」小島明会員、卓話（2）ベートーヴェンの「不滅の恋人」大澤亘会友、他
大阪	会報 第378号	卓話「文科省の一受賞者の皇居見学報告」野村正勝氏、近況報告「外国人人材」伊丹谷五郎会員、他
北九州	月報 5年3月号	卓話「城下町の今と昔」神田澄男会員、歴史文学講座「企救郡（小倉・門司）の文学碑」講師轟良子氏、他

●『ちょうちょう』作詞：野村秋足 作曲：スペイン民謡
 ちょうちょう ちょうちょう
 葉の葉にとまれ
 葉の葉にあいたら 桜にとまれ
 桜の花の 花から花へ
 とまれよ遊べ 遊べよとまれ

前回 第379回 通常例会 2023年3月8日（水）
 会場：ホテルモントレ大阪 12：00～14：00

◎第379回 通常例会

○司会進行：野村尚子会員
 ○ソング：吉川栄子会員 ●『春の小川』
 ○食事タイム

ワイン：ファビュラス・フォエミネ・ピノグリージョ
 生産地：イタリア・アブルツォ州、マジョラ国立公園内のワイナリー

スタッフコメント：春にぴったりです。

ピノワールという黒ブドウが突然異じてきた白ブドウ品種。皮が少し赤みをおびたグレー白しています。それを醸したので淡くかわいらしいピンク色のワインに仕上がっています。味わいはチェリーのような味わいがあり、飲みやすいオレンジワインです。ラベルにはイタリア・アブルツォ州に伝わる物語が描かれています。（母から娘や義娘に受け継がれた月形イアリングをラベルに施しています。）



アブルツォ州



ピノグリージョ

○山下恵司副会長挨拶；有竹会長欠席で山下副会長より挨拶あり。
 ○幹事報告：特になし
 ○誕生月会員：右から12月永田慎一会員、3月吉川栄子会員、3月西宮富夫会員



今回 第380回 観桜会 2023年4月12日（水）

会場：花外楼（北浜） 12：00～15：00

- 大阪プロバスの歌（作詞：渡辺 孟 補詩：田村徳郎）
- ① プロバスクラブへ集まろう 気の合う仲間とお昼時
元気に歌おう会の歌 第二の人生また楽し
 - ② プロバスクラブに集まって 優しく気軽に話そうよ
見せたい自慢の得意技 遊びのプランもまた楽し
 - ③ プロバスクラブに集まれば 高まる奉仕の心意気
世界に広がる和の願い 明日も愉快地に生き抜こう

- 出席報告：担当委員長代理より9名との報告。
- OH-BOX 担当委員長代理より4名4,000円との報告。
- ★川端崇且（タカアキ）会員：一昨日、久しぶりにゴルフクラブ競技で優勝しました。
- ★野村尚子会員：あたたかくなりましたね。
- ★西宮富夫会員：梅も咲き始めましたが、出席が少なくなりました。
- ★浅山紀久子会員：観桜会を来月に致します。美味しいお料理をご一緒しましょう。

◎卓話「縄文時代に関する新仮説紹介（東北大学名誉教授田中英道氏の仮説）」西宮富夫会員

田中英道氏監修「日本とは何か・日本人とは何か」巻頭エッセイ「日本人の記憶を旅する」より抜粋引用し、縄文時代に関する新仮説をポイントごとに紹介します。（以下の4ポイントをご確認ください。）

<ポイント1>「太陽が昇る場所を求めて」

日本で発見された旧石器時代の遺跡数は1万以上、対して朝鮮半島では50ほど。これが意味することは、アフリカを出て世界中に散らばった人類は、大陸や半島よりも先に日本に来ていたのではないかということだ。

そもそも何故人類はアフリカを出たのだろうか。ここに一つの仮説がある。それは「太陽が昇るところへ行く」というのがモチベーションになったのではないかということだ。極東—日本こそは「太陽の昇る場所」として人類が目指した最後の目的地ではなかったか。

<備考：旧石器時代と縄文時代（新石器時代）の違いは使用石器の違いで区別>

- 「旧石器時代」：打製石器を使用していた時代。打製石器は打欠く方法のみによってつくり上げた石器で磨きを伴わないもの。
- 「縄文時代（新石器時代）」：磨製石器を使用していた時代。磨製石器には石皿・磨石・石斧（磨製石斧）等がある。



打製石器（画像引用元：東京博物館）



磨製石器（画像引用元：Wikipediaより）

<ポイント2>縄文土器はすでに芸術

「世界4大文明」が表れたのは約5500年～3500年前とされる。日本の縄文時代は約1万6000年前から始まり約2500年前まで続いた文明と考えられている。しかし、日本では「文明」と数えられていない。狩猟採集民族は貧しく不安定な生活をしており、高度な文明が生まれるはずがないと考えられてきたのだ。ところが縄文時代の人々は定住し、豊かな暮らしをしていたことがわかってきた。

特に火炎土器は持ち運びに適さないので定住の証拠となる。また、高度な精神世界が存在していた証拠となる。



火炎土器：
（画像引用元：縄文土器 Wikipedia より）

<備考：日本の縄文時代（新石器時代）の土器>

（以下、文・画像引用元：縄文土器 Wikipedia より）

食料の加工・生業

ドングリやトチノミなどの堅果は、食料とするために小河川などに作業場を設け、水漬けや灰汁を使ってアクの成分であるサポニンを洗抜きする工程が必要であり、そのため灰が必要であった。灰を得るために大量の草木を燃やした事が土器製法の発見につながった。あるいは土器を製作する際に生まれた灰から、ドングリやトチノミを洗抜きする方法が発見されたと考えられる。土器の製法と洗抜きの方法のどちらが先に発見されたかは不明だが、日本列島において世界的に見て最初期に土器が普及したのは、こうした事情によると想像される。



深鉢型土器



遮光器土偶

<ポイント3>高天原は関東に実在した

江戸時代まで天皇家と関係する神社は伊勢神宮（三重）、鹿島神宮（茨城）、香取神宮（千葉）の3つしかなかったが、2つまでが関東にある。なぜ大和朝廷ゆかりの神社が2つも関東にあるのか？

神話（古事記）では神々の住む場所は「高天原」として描かれ、その末裔が天皇家だとされるが、鹿島神宮の近くには「高天原」という地名が3つも残っている。

高天原は空想や概念で生まれた代物なのではなく、太

古、本当に関東に実在した場所だったのかもしれない。

<備考：古事記の高天原>Wikipediaより引用

●高天原（たかまがはら、たかまのはら、等）は、『古事記』に含まれる日本神話および祝詞において、天照大御神を主宰神とした天津神が住んでいるとされた場所のことで、有名な**岩戸の段**も高天原が舞台である。

『古事記』などでは、地上の人間が住む世界である葦原中国や、地中にあるとされる根の国・黄泉に対し、天上界にあった、と記述された。

『古事記』においては、その冒頭に「天地（あめつち）のはじめ」に神々の生まれ出る場所としてその名が登場する。（中略）天照大御神が生まれたときに、高天原を治めるよう命じられた。

須佐之男命にまつわる部分では、高天原には多くの神々（天津神）が住み、天之安河や天岩戸、水田、機織の場などもあったことが記述されており、人間世界に近い生活があったとの印象がある。葦原中国が天津神によって平定され、天照大御神の孫の邇邇芸命が天降り（天孫降臨）、以降、天孫の子孫である天皇が葦原中国を治めることになったとしている。

●高天原の所在地については古来より諸説ある。

天上説：信仰や観念的な考え方で、「高天原は神の住まう場所であるから、天上や天より高い宇宙に決まっており、それ以外の場所を考えるのは不遜である」とする説。本居宣長の説が代表的なもので、戦前は皇国史観と結びついてこの考え方が主流であったと言われるが、地上説も盛んであった。

地上説：「神話は何がしかの史実を含んでおり、高天原も実在したものを反映している、または故地を高天原と呼んでいた」とする説。早くには新井白石が「高天原とは常陸国（茨城県）多賀郡である」とした。

<ポイント 4>奇妙な一致を見せる旧約聖書と日本神話

記紀に描かれる「神代七代」は聖書の「天地創造の七日間」に対応するし、モーゼと神武天皇の建国の物語もそっくりだ。聖徳太子は馬小屋で生まれたので厩戸皇子ともいうがキリストも馬小屋で生まれている。イザナギは妻の死後、黄泉の国で「見てはいけない」と言われたイザナミを覗き見る。アポロンの息子オルフェウスは妻の死後、冥府で「姿を見るな」と言われた妻を振り返ってしまう。

時も場所もかけ離れているのに両者はなぜ同じことを語るのか。もしかすると、聖書やギリシャ神話の存在を知っていたユダヤ人が当時日本にいたのではないか？それを裏付ける証拠もある。**ユダヤ人埴輪の存在**だ。（中略）飛鳥時代以降の日本人とはあまりに異なる姿だ。

これまで渡来人という場合、もっぱら朝鮮半島からやってきた人々のことを指していた。しかし、はるかに遠い場所からユダヤ人がやってきていたとしたら――。

<備考：芝山町立芝山古墳・はにわ博物館より引用>

房総半島の北東部、芝山町周辺の九十九里地域は、県内でも有数の古墳の密集地であり埴輪の宝庫として知られています。

当館は、昭和 63 年の開館以来、「房総の古墳と埴輪」をテーマに活動をしてきましたが、今回新たに殿塚・姫塚など観音教寺所蔵埴輪の寄託を受け、展示資料を充実させて常設展示をリニューアルいたします。

ヒゲの武人、馬子、巫女、馬、鶏、魚、家など多種多様で造形美あふれる埴輪をぜひご覧ください。

はにわ博物館の姫塚出土の人物埴輪（武人）



<備考：秦氏の出自と日本文化への貢献より引用>

日本書紀によると、弓月君(ユヅキノキミ)が3世紀末、朝鮮半島より渡来したことが**秦氏**の基であると記されています。

当時、中央アジアには弓月国が存在し、そこに弓月部族が居住していました。そこ**(弓月国)はイスラエルの祖先が居住していた**地域であり、西アジアからも近く、景教の一大拠点としても知られています。

また、シルクロードの通過点となる場所に位置していたことから、多彩な文化の交流とともに、キリスト教の布教も熱心に行われた地域でした。秦氏は景教の信奉者であることからしても、(中略)日本書紀の記述にあるとおり、秦氏の故郷が中央アジア近辺の弓月国に関わっていたと考えて間違いのないようです。

(中略)秦氏の本拠地にある八坂神社の祇園信仰においても、その「ギオン」という名前の語源が、神が住まれるイスラエルの聖地「zion、ツィオン」と考えられるのです。秦氏とその拠点となる京都の多くの儀式や祭りの数々に、古代ヘブライ信仰との類似点が多く存在することにも注目です。



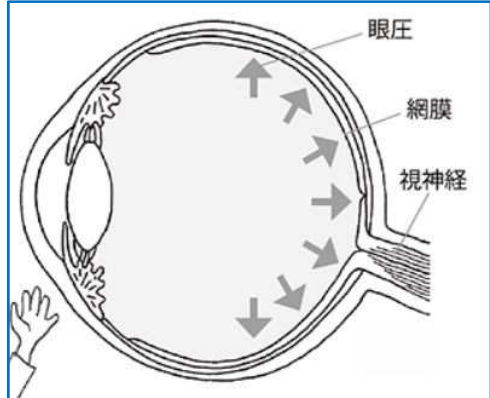
◎近況報告「妻が緑内障で手術した」永田慎一会員

最近、80才の妻が緑内障で手術し、10日ほど入院した。今は元気とのこと。また、妻は祇園で「甘味どころ ぎおん小森」をやっているが手が足らず困っているとのこと。

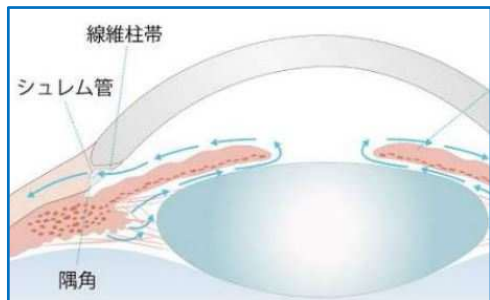
(以下の文・画像は公益財団法人日本眼科学会「緑内障」より抜粋引用した)

○**症状**：緑内障の自覚症状としては、見えない場所(暗点)が出現する、あるいは見える範囲(視野)が狭くなる症状が最も一般的です。

○**原因**：眼圧は「房水」という目の中を循環する液体の産生と排出のバランスによって決まります。(中略)この房水の循環によって、ほぼ一定の圧力が眼内に発生し眼球の形状が保たれます。この圧力のことを「眼圧」と呼びます。



眼圧



(会報担当より：青線が房水の流れを示す)

(1) 原発開放隅角緑内障

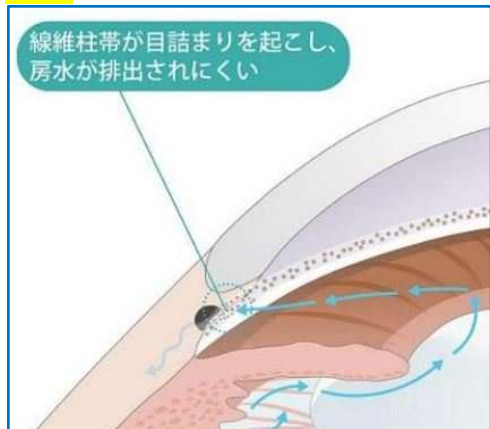


図2 目詰まり

線維柱帯(とその奥にあるシュレム管)と呼ばれる場所が**目詰まり**(図2)を起こし、うまく房水が流出されないために眼圧が上昇すると考えられています。原発とは、「誘因となるほかの病気がないにもかかわらず」という意味。隅角とは、線維柱帯を含めての房水の流出路の場所で、角膜と虹彩の間を指す。つまり、この病名は、

「ほかの病気のためではなく(原発)」、「隅角が見かけ上開放されているのに(開放隅角)」、視神経が障害される緑内障であることを意味しています。

(2) 原発閉塞隅角緑内障

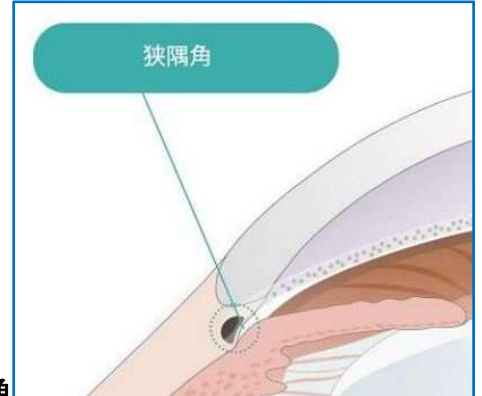


図3 狭隅角

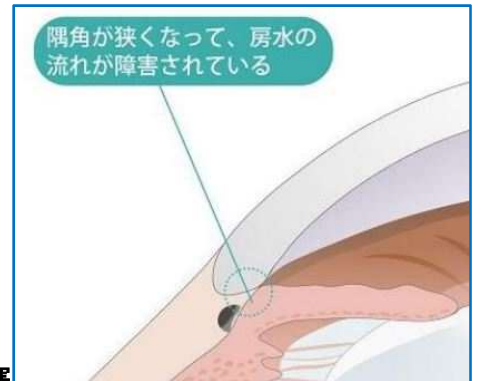


図4 閉塞

原発閉塞隅角緑内障とは、「ほかの病気のためではなく(原発)」、「隅角が狭くなり**狭隅角**(図3)、ついには閉じてしまう**閉塞**してしまう(図4)のために」、房水の流出が障害され眼圧が上昇する緑内障であることを意味します。

○**治療**：緑内障の**治療は眼圧を下げる**ことです。(中略)治療の目的は進行を止める、または遅らせることであり、回復させるものではありません。治療方法としては、薬物療法・レーザー治療・手術があります。

(1) 薬物療法

多くの緑内障では、薬物療法が治療の基本となります。

(2) レーザー治療

レーザー治療には主に二つの方法があります。一つは、虹彩(いわゆる茶目)に孔を開けて、眼内の房水の流れを変えようというもので、多くの閉塞隅角緑内障がこの方法によって治療可能です。虹彩に孔を開けるときにレーザーを使用します。もう一つは、線維柱帯に照射することで房水の排出を促進するためのレーザー治療です。

(3) 手術

薬物療法やレーザー治療が功を奏さなかった場合に行われる治療です。大まかには、**房水を眼外に染み出すように細工をする手術と、線維柱帯を切開して房水の排出をたやすくしてやる手術の二つ**があります。

以上

次回 第381回 通常例会 2023年5月10日(水)
会場：ホテルモントレ大阪 12:00~14:00